731通信

７３１部隊被害者遺族を支える会
連絡先　東京都新宿区新宿１－６－５シガラキビル９Ｆ
ピープルズ法律事務所内

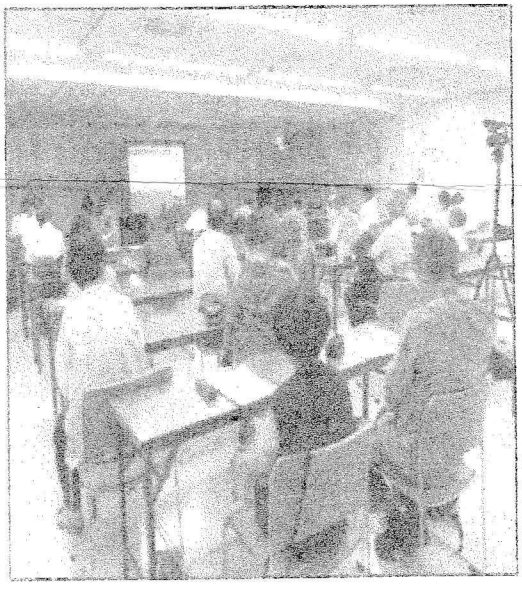
「登戸研究所と７３１部隊」

講師・山田朗さん（明治大学教授）

７月18日、武蔵野芸能劇場で学習会がおこなわれました。この学習会は「軍医学校跡地で発見された人骨問題を究明する会」との共催でおこなわれました。オンライン併用とで会場とあわせて110名余りの参加でした。「登戸研究所と７３１部隊」と題して明治大学教授の山田朗さんにお話をしていただきました。

山田さんのお話の概要です。

山田さんは、まず日本の生物戦と７３１部隊のことを話されました。1932年に陸軍軍医学校防疫研究室に石井四郎三等軍医が就任します。これは少佐相当です。ハルピンに置かれた部隊は



この時は加茂部隊とよばれていました。36年に関東軍防疫部隊となりました。ハイラル・孫呉・林口・牡丹江の４支部ができます。41年に防疫給水部となり、７３１部隊とよばれるようになります。ペスト菌の開発をすすめ、日中戦争で寧波、承徳、金華、義烏などで生物兵器を使用します。

一方謀略部隊としての登戸研究所は陸軍第９研究所として４つの科が置かれます。

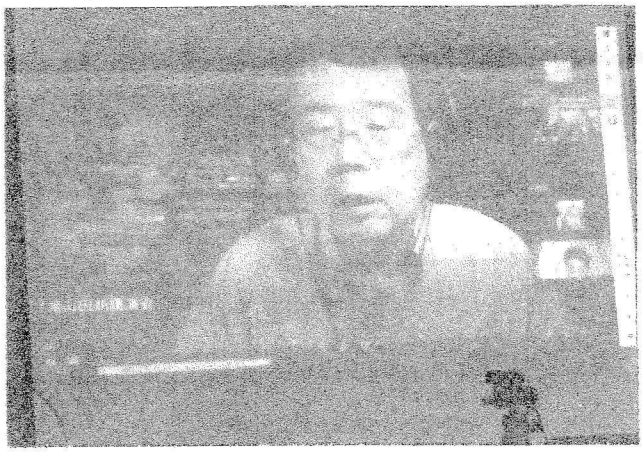
第１科は物理学を基本とした研究開発です。特徴的な風船爆弾、これは焼夷弾を積んで米本土にむけて9,300発とばされました。アメリカで民間人６名が犠牲になりました。

第２科は化学を基礎にした研究です。生物兵器担当では、青酸ニトリルなどの開発がおこなわれ、南京の1644部隊で実験がおこなわれました。

第３科は印刷技術を使っての研究です。ニセ札づくり、蒋介石政権のニセ札をつくり経済の混乱を目的としましたが、中国でそれを上回るインフレが進行し、成功しませんでした。

第４科は、開発した兵器の生産を担当しました。

そして、戦後の1948年、東京豊島区で帝銀椎名町支店で事件がおこります。毒を飲まされた銀行員12名が



死亡する、という事件です。

この事件の捜査では捜査一課とは別に秘密捜査班が結成されます。米軍情報で、戦前の秘密部隊との関わりがあることがわかるからです。捜査対象は７３１部隊、登戸研究所、新宿の第六研究所関係者に及びます。

青酸ガスを使っていた化学部隊として関東軍５１６部隊、習志野学校 の元兵士が捜査対象になります。そのやり方もまず飲んでみせる、という手法も似ていました。

石井四郎は合計９回にわたり、聞き取りをされています。それは７３１部隊関連の人脈、青酸カリの毒性について、などをくりかえし述べています。そのなかで石井から過去に青酸毒物で毒殺した過去のある人物も聞き出します。

また、当初毒物は青酸ニトリルとみられていました。青酸ニトリルは一般には入手できません。そこで化学部隊関係者に捜査の手が伸びるのですが、登戸研究所の伴繁雄が捜査会議に出席し、青酸カリ説を主張します。

しかし、なかなか捜査がすすみませんが、銀行を訪れた時「厚生省技官・松井尉」名の名刺を出したので、ここから捜査がすすみます。実在の松井さんはアリバイがあり、名刺を渡した人を克明に記録していたため、渡された人のなかで、名刺を持っていない人が犯人だということで、北海道で平沢貞通画伯が逮捕されます。厳しい尋問が続き、ついには自白してしまいます。自白調書のねつ造疑惑もあります。生き残った被害者の

面通しでも平沢を犯人と断定した人はいませんでした。また、平沢には毒物の知識はありませんでした。

裁判では無罪を主張しますが、死刑が確定し、獄中で亡くなります。

この過程で松井技官にも疑惑の目が向けられます。松井氏は戦前、第二十五軍軍政部衛生課長でした。そこでは、現地人を注射で殺したことがあるなどの事実も判明しました。しかし帝銀事件の関与は確かにありませんでした。

この捜査には、ＧＨＱの占領政策もかかわっています。７３１部隊関係者が疑われますが、ソ連との対立が始まっていて、７３１部隊の研究成果をとった方が７３１部隊を追求するより良い、と判断したＧＨＱは、７３１部隊を戦犯免責してしまいます。ソ連から石井四郎の身柄引き渡しが求められますが、戦犯免責をしたＧＨＱはこれを拒否します。冷戦の始まりの中でおこったことです。

登戸研究所関係者にも米軍は接近します。研究成果と引きかえに戦犯免責をします。これは後のことですが、朝鮮戦争がはじまった1950年頃から米軍横須賀基地に登戸研究所関係者が集められます。ＧＰＳＯという米軍の謀略機関です。そこでは中国・ソ連・北朝鮮などの紙幣、パスポート、身分証明書などが偽造されます。戦前の登戸研究所の研究・技術が戦後の米軍にひきつがれるのです。

日本陸軍の秘密組織・部隊と帝銀事件との密接なかかわりがあります。そこで、７３１部隊と登戸研究所が大きな

役割を果たしています。米軍による７３１部隊・登戸研究所関係者への免責と事件捜査の介入の時期が奇妙に符合します。戦争責任・戦争犯罪の追求よりもソ連に対して優位にたつことを優先してしまうのです。ＧＨＱと旧軍関係者の捜査介入があり、戦前と戦後をつなぐ事件なのです。

こんな山田さんの話のあと、参加者からの質疑・討論がおこなわれました。

そのなかでは、石井四郎をはじめ、７３１部隊の兵士はまったく戦犯には問われなかったのか、という質問もでました。日本に逃げ帰った部隊員は一人も戦犯で裁かれていません。ソ連軍に捕まった人の中にはハバロフスク裁判で調べられて、後に中国の撫順戦犯管理所に移管された人の中には、罪を認めた人もいます。この証言が元になって、７３１部隊の事実の一端があきらかになっています。これらの人たちは中国の裁判で人道的措置として、起訴猶予となり、全員が帰国しています。

次回学習会

「７３１部隊について考える」

日時：９月28日（木）
18時半～
講師：五井信治さん
（７３１ネットワーク）

次回はオンラインのみでおこないます。

７３１部隊長・石井四郎にまつわる

フィールドワーク

石井四郎の生家のあった千葉県で・・・

７月17日、７３１ネットワークで、千葉県北部のフィールドワークをおこないました。部隊長の石井四郎の生家があり、この故郷の人脈をたどって、部隊員を集めたともいわれています。

石井四郎ゆかりの地を回りました。現在の山武郡芝山町です。石井四郎は地域の名士でした。この村の春日神社の境内にある「忠魂碑」は石井四郎の揮毫によるものです。その建立年は昭和32年（1957年）です。戦後も地域の人は石井四郎に揮毫を依頼していたのです。亦、芝山町東小学校の校地にある二宮尊徳像の台座の「報徳」の文字も石井四郎の書であることが示されています。こちらの建立年代はわかりません。この台座の裏には石井四郎の長兄である剛男筆頭の記名があり、この村から７３１に行ったと思われる氏名が記載されているので1940年ごろと推定されます。

石井四郎の生家は今は更地になっています。石井家の家業の造り酒屋でしたが、父の代で家業が傾き、売却され、そのまま空き地のままです。ここは成田空港第三滑走路の建設予定地にく

石井家跡は完全な空き地です

りいれられていて、いずれコンクリートで固められてその下に埋もれます。石井四郎の痕跡を残したくないのかもしれません。この近くの高台に石井家の墓地があります。四郎の墓は東京新宿にありますが、家族の墓はここに集中しています。しかし、現在だれも世話をする者がいないようで、荒れ果てています。

この石井家跡地の近くを流れる高谷川は、石井四郎が「石井式濾過器」を実験した場所であることがわかっています。７３１部隊は防疫部隊として登録されています。汚れた水を濾過して飲用にするというものです。この高谷川で石井四郎は近所の人の前で濾過器の実験をして、この水を飲んで見せた、という証言が残っています。

石井四郎の生まれた地には、７３１部隊にまつわる痕跡がいくつかあります。この地から７３１部隊に参加した者が多いことも石井四郎の人脈だと考えられます。

むさしので

731部隊展

パネル展示
日時７月30日（金）～８月１日（日）10時～19時
会場　武蔵野プレイス
（ＪＲ中央線・武蔵境駅南口すぐ）
入場無料

講演会
「７３１部隊・１００部隊の戦後責任」
日時８月１日（日）14時～16時分30分
会場　武蔵野プレイス４階フォーラム
講師　加藤哲郎さん（一橋大学名誉教授）
資料代　５００円（要予約・先着50名）

主催　むさしの科学と戦争研究会
連絡先　鳥居080-6602-2913

このとりくみは当ネットワークのとりくみではありませんが、７３１部隊のパネル展示もおこなわれますので、ここに紹介します。